

WEEKLY NEWS

Vol.55 第2628回例会

2021.10.14

今年度会長テーマ

時を守り、場を清め、礼を正す



卓話：米山奨学生 孫 賢宇様 (東京武蔵野RC)

— プログラム —

- ① 点鐘：野澤会長
- ② 合唱：ソングリーダー：北久保会員
我等の生業
- ③ お客様紹介：野村会員
- ④ 会長挨拶・会務報告：野澤会長
- ⑤ 幹事報告：平野幹事
- ⑥ 出席報告：神崎会員
- ⑦ ニコニコボックス：高野会員
- ⑧ 委員長報告
- ⑨ 卓話
- ⑩ 謝辞・閉会点鐘：野澤会長



- 会員数：27名
- 欠席：3名
- 免除者：1名
- 出席率：88.00%
- 出席者：22名
- 3週間前出席率
(修正後)：休会

例会日：毎週木曜日 12:30~13:30
例会場：八坂神社 社務所
〒189-0013 東京都東村山市栄町3-25-1

週報作成：クラブ管理委員長 大仁田 隆義
事務所：〒189-0013 東京都東村山市栄町3-5-1 ハイツむさしの101
URL：https://hm-rc.org/ h.murayama@eagle.ocn.ne.jp
facebook：https://www.facebook.com/HigashimurayamaRC/
TEL 042-393-7500 FAX 042-395-1166



会長：野澤秀夫
副会長：北久保隆一
幹事：平野裕明
副幹事：大仁田隆義

③お客様紹介

野村会員

米山奨学生 孫 賢宇様 (東京武蔵野RC)

④会長挨拶・会務報告

野澤会長

15年程前の新聞コラム。世界の中でも、日、伊、独で少子化が激しくなって、出生率の「1.29ショック」と言われた。1人の女性の生涯出生率が2.08なければ、人口を維持できない。日本人は、人口減少で150年後には「0」になる計算。鳴り物入りで少子化政策がとられた。児童手当、奨学金、産休、育休、保健所の整備、父親の育児参加などの政策が打ち出されたが、いずれも焼け石に水。効果は上がっていません。仏国でも「誰の子供でも良いから産んでくれ作戦」。シングルマザーの子を国が預かり教育し、成人させることによって若い労働力を確保する政策。しかし、景気に左右される。国の資金が苦しくなると、こうした低所得者は、真っ先に打ち切られる。暴動が発生し、この政策は失敗に。豊かで便利な社会だから、独身でも快適なくらしが出来るので、手間と金が掛かる子育てはしないという人が増加。「女性を水飲み場まで連れて行くことはできるが、水を飲むことはできない」。このコラムの記者は、100年前のガイ・ガンディカーの「あなたをロータリークラブの会員にしたが、ロータリアンになれるかどうかは、あなた次第です」という言葉を引用したのでしょか。

⑤幹事報告

平野幹事

- ・オープン例会報告フォームについて オープン例会実施から30日以内に報告
- ・当麻会員メジャードナー顕彰御餐会の案内 12/6(月)9:00~@ザ・オークラ・トウキョウ
- ・ポリオ根絶活動に関するワークショップ 10/25(月)15:00~Zoom→登録が必要ですのでご希望の方はお申し出ください。
- ・RLIパートⅡ講習開催の案内 11/26(金)9:00~@東武レバントホテル東京
- ・山本会員 上記講習会のディスカッションリーダー 依頼

[回覧]

オープン例会成功の為の6つのヒント/会員増強7つの習慣/ハイライトよねやま

⑦ニコニコBOX

高野会員



- ◆細川名譽会員：先般は妻愛子の誕生日に花束をありがとうございます。
- ◆野澤会長・平野幹事：日本の四季は素晴らしいです。とりわけこの季節はいろいろな意味で最高です。皆さんもコロナのうづぶんを晴らしながら素晴らしい秋を楽しんでください。米山奨学生孫さん、卓話楽しみにしております。

合計：44,000円 累計：285,000円

- 比国育英会バギオ基金から感謝状贈：野村会員(6回目) 当クラブ(5回目)



⑧委員長報告

■野村会員研修委員

ロータリーの友紹介。



■大仁田クラブ管理委員長

- ・「新入会員歓迎会」を11月中旬に「たきび」で計画中
- ・クリスマス家族親睦移動例会を12/18(土)掬水亭で開催。ご家族と共に奮ってご参加ください。



■山本例会運営委員長

次回は「オープン例会」。お誘いした方や来訪者を事務局までご連絡ください。



■石山ゴルフ部部长



明日の「多摩分区分親睦ゴルフ兼、地区大会予選会」説明。

⑨卓話

■卓話者紹介：野崎会員



～兵役で学んだ本質を見抜く力と 変毒為薬の教訓～

■卓話者：米山奨学生 孫 賢宇様 (東京武蔵野RC)

本日は、分断国家という韓国の特殊な事情を説明し、2017年5月～2019年2月までの兵役時代のエピソード。その経験から得られた力や教訓についてお話しします。1997年生まれ、子供の頃からクレヨンしんちゃん等を親しむ。日本語を勉強し留学を決意。2016年明治大学入学。2年間兵役に就き、2020年退役。米山奨学生となり、韓国と日本の懸け橋になりたいと決意。ソウル北部にある第3650地区ローターアクトと連携し両国の交流を続けている。ターニングポイントになった兵役。北朝鮮を敵として、徴兵制がとられている。男子は、19歳で身体検査を受け希望し陸軍に入隊。その後、輸送教育部隊配属。目的は何か、どうすれば効率的になるか。分隊長として、勉強したことが役に立った。「今の生活は、必ず自分自身の今後の成長の糧になる」と激励を続けた。そして、隊員が受動的から能動的態度に変化し団結の強い組織となった。軍人として学んだ本質を見抜く力。変毒為薬(毒を以て薬と成す)の教訓を得た。どのように苦しくても、必ず自分自身の今後の成長になると思って臨むことが重要であることを。

⑩謝辞・閉会点鐘：野村会長